

視 察 報 告 書

- 1 視察年月日 令和6年5月7日から5月8日まで
- 2 視察場所
令和6年5月7日(火) 大阪府泉佐野市役所
令和6年5月8日(水) 大阪府寝屋川市立中央図書館
- 3 視察事項
 - ・ 令和6年5月7日(火) 泉佐野市役所
泉佐野市におけるふるさと納税の取組について
 - (1) ふるさと納税に積極的に取り組むことを意図した経緯・契機・背景
 - (2) 取組を通じてもたらされた効果(メリット)
 - (3) 現在、特に積極的(重点的)に取り組んでいる取組
 - (4) 現在感じている課題意識
 - (5) 今後に向けた展望や、今後行っていきたい取組
 - ・ 令和6年5月8日(水) 寝屋川市立中央図書館
寝屋川市立中央図書館の取組について
 - (1) 図書館を駅前に設置した経緯や背景
 - (2) 現在積極的(重点的)に取り組んでいる取組
 - (3) 駅前に立地していることで感じるメリット・効果
 - (4) 現在、特に積極的(重点的)に取り組んでいる取組
 - (5) 現在感じている課題意識
 - (6) 今後に向けた展望や、今後行っていきたい取組
- 4 視察参加者(10名)
赤羽直一、佐藤隆治、金澤克仁、岩澤信、小堤修、鈴木三男、海東一弘、杉山尊宣、岡口すみえ、長塚美雪
- 5 視察行程 別紙のとおり
- 6 視察報告 別紙のとおり

上記のとおり報告します。

取手市議会議長 岩澤 信 殿

令和6年5月22日

取手市議会 会派創和会 代表者 金澤 克仁

茨城県取手市議会 会派 創和会 行政視察研修行程表

令和6年5月7日（火）

泉佐野市視察事項：「泉佐野市におけるふるさと納税の取組について」

のぞみ211号

取手駅 …… 東京駅 …… 新大阪駅 …… 大阪駅 …… 日根野駅 …… 昼食（泉佐野市内）

07:33 発 08:25 着/08:39 発 11:06 着/11:23 発 11:27 着/11:38 発 12:31 着

…… 泉佐野市視察研修 …… 泉佐野駅 …… 難波駅（徒歩でなんば駅へ） …… 天満橋駅 …… 宿泊地（ホテル京阪 天満橋（大阪市中央区））

14:00～15:30

令和6年5月8日（水）

寝屋川市視察事項：「寝屋川市立中央図書館の取組について」

宿泊地 …… 天満橋駅 …… 寝屋川市駅 …… 寝屋川市視察研修 …… 昼食（寝屋川市内） …… 寝屋川市駅 ……

9:15 発 9:31 着 （寝屋川市立中央図書館） 13:15 発

10:00～11:30

のぞみ228号

…… 京橋駅 …… 大阪駅 …… 新大阪駅 …… 東京駅 …… 取手駅

13:27 着/13:35 発 13:41 着/13:47 発 13:50 着/15:00 発 17:27 着/17:40 発 18:32 着

取手市議会会派創和会 代表 金澤 克仁 殿

行政視察報告書

取手市議会議員 長塚 美雪

1 視察日

令和6年5月7日（火）

2 視察先

泉佐野市役所

3 調査項目

泉佐野市におけるふるさと納税の取組について

4 視察内容

視察説明担当：阪上博則 氏 ふるさと納税エバンジェリスト
政策監 兼 成長戦略室 室長 兼 MICE 推進担当理事

<質問事項>

(1) ふるさと納税に積極的に取り組むことを意図した経緯・契機・背景

【背景】財政難（泉佐野市は関西国際空港に隣接、開発等で1000億以上の借入）
2009年 財政健全化団体に転落（※2014年脱却）

【契機】2011年の千代松市長就任 「税外収入を確保しよう」

【経緯】「まちの活性化プロジェクトチーム」発足

→ 2012年ふるさと納税取組強化

2014年度 LCC Peach とタイアップした「ピーチポイント」を導入

…前年度の約10倍（約4億6000万）の寄附金

2016年度 「肉の泉佐野」の取組 「肉」返礼品の強化

…約35億円の寄附金 全国8位

2017年度 1000種類を超える返礼品

…約135億円の寄付金 全国1位 ※以降3年連続日本一

(2) 取組を通じてもたらされた効果（メリット）

→様々な市民サービスの向上に寄与

（一例）

- ・長年の懸念だった市内小中学校のプール整備（災害時はろ過して飲み水に活用）
- ・体育館の空調整備 ・校舎の耐震化 ・放課後教室の充実
- ・市や市民団体が行うイベントに助成金 等

(3) 現在、特に積極的（重点的）に取り組んでいる取組

「#ふるさと納税3.0」～地場産品を創ろう～

→資源の少ない泉佐野市が新たな地場産品（返礼品）を作るために設けた補助金制度

① 地場産品創出支援事業補助金

…新たな特産品を創る企業誘致&市内事業者支援

② 中小企業支援事業補助金

…市内事業者のふるさと納税参入に伴う設備投資等の支援

…既存のふるさと納税事業者の事業拡大や設備投資等の支援

※原資をふるさと納税型のクラウドファンディングで調達

【特徴】一般財源を持ち出さない → 全国の自治体にも波及し始めている

2020 年（初年度）は 9 つのプロジェクト立ち上げ 5.5 億円の寄附を集めた

→4 年間で合計 65 件のプロジェクト … 寄付総額 116 億円

・プロジェクトから生まれた返礼品数は 100 以上

・寄附額を大きく押し上げる原動力

・企業誘致に成功

【泉佐野市が感じたメリット】・競争力のある返礼品を生み出す

・事業者のモチベーションが上がる

・自治体担当者と事業者の関係性が良くなる

(4) 現在感じている課題意識

・初心者自治体の首長や担当者が頑張り方を間違える（産地偽装等）

・初心者自治体の首長や担当者が地場産品基準に間違った認識を持っている

（担当職員の異動）※泉佐野市はふるさと納税専任職員 7 名

（地場産品基準は地域により違うことがある）

・中間管理事業者の選定（業者により対応が違う）

・ポータルサイトを厳選（上位 4 社でシェア約 95%…数が多ければ良いわけではない）

(5) 今後に向けた展望や、今後行っていきたい取組

・全国の多くの自治体にふるさと納税の成功体験を得て欲しい

・全国の多くの自治体にとってふるさと納税制度が大切な存在になってほしい

・関わる全ての人に（大切な存在の）制度を守ろうという意識を持ってほしい

様々な「アイディア」により寄附額が拡大してきた泉佐野市。

ポイントは担当職員の尽力だけでなく、首長・議会のスピード感や事業主とのコミュニケーションによるアイディア創出も大きく寄与するとの事。

泉佐野市と同様、本市も中村市長就任後より税外収入確保の観点から、ふるさと納税の取組を強化し始めたばかり。質疑も活発に行われ、参考にすべき点が多々あった視察となりました。

以上で、大阪府泉佐野市の視察報告とします。

取手市議会会派創和会 代表 金澤 克仁 殿

行政視察報告書

取手市議会議員 岡口 すみえ

- 1 視察日 令和6年5月8日（水）
- 2 視察先 寝屋川市立中央図書館
- 3 調査項目 寝屋川市立中央図書館の取組について
 - （1）図書館を駅前に設置した経緯や背景
 - （2）現在積極的（重点的）に取り組んでいる取組
 - （3）駅前に立地していることで感じるメリット・効果
 - （4）現在、特に積極的（重点的）に取り組んでいる取組
 - （5）現在感じている課題意識
 - （6）今後に向けた展望や、今後行っていきたい取組

4 視察内容

寝屋川市駅前の商業施設に開設された中央図書館は、駅を出てすぐ目の前にある。施設外壁には、図書館の大きな表示があり、誰でもそこに図書館があることが分かるものである。令和3年に開設された4階のフロアーは、専有面積2184.82㎡であり、本の世界への入口であるエントランスをはじめ、館内が寝屋川をイメージした「KAWA」をデザインした優れたものであった。

（1）図書館を駅前に設置した経緯や背景

平成30年6月18日大阪府北部地震が発生し、直後から中央図書館が閉鎖。翌月、公共施設の在り方調査検討委員会が設置された。市議会において、中央図書館の検討がなされ、費用面から新たな施設の建築は行わないことになった。寝屋川市駅前のアドバンスねやがわの床の一部を取得。

（2）現在積極的（重点的）に取り組んでいる取組

①「まちづくりに貢献する図書館づくり」

人が集まり、さまざまな活動や人と人との交流が自然に生まれ、市民とまちの発展につながる図書館づくり。

②「図書館サービスの向上」

図書の収集・整理・保存・提供という図書館の基本的な機能を意識し、管理しやすく、サービスが行き届く図書館づくり。

③「まちの顔となる図書館づくり」

多世代の市民の居場所づくりとして、さまざまなスタイルの閲覧空間を提供する。木でつくる独創的な空間とする、唯一無二な図書館づくり。

(3) 駅前に立地していることで感じるメリット・効果

これまで、あまり図書館を利用したことのない、仕事帰りの人々や学生の利用が増加している。駅前のにぎわいの創出を生み出している。若者の居場所であったり、地下のスーパーの買い物客の増加にもつながっている。

(4) 現在、特に積極的（重点的）に取り組んでいる取組

- ①郵便局との配送サービス事業
- ②ねやがわ電子図書館の開館
- ③学校司書・中央図書館司書との連携
- ④学校図書館図書配送サービス事業
- ⑤おとどけボックス事業
- ⑥児童生徒への利用案内
- ⑦カフェ事業者とのコラボ事業

(5) 現在感じている課題意識

ランニングコストはかかるが、市民サービスの向上を図っていききたい。さらに、市民の方々の読みたい本がすぐに案内できるようにしていきたい。

(6) 今後に向けた展望や、今後行っていきたい取組

イメージは「大人の図書館」である。駅前の立地をいかし、学生の学びの場や憩いの場として、また、シルバー世代や働く世代など、日常的に図書館に通いにくい人たちが、自分の「時間」と「居場所」を求め、毎日行きたくなるような、これまでの図書館のイメージを一新する落ち着いた空間を創出してきた。今後は、さらに家でも職場でもない居心地の良い場所『サードプレイス（第三の場所）』として、多くの市民に愛される図書館づくりをしていく。

寝屋川図書館を視察し、取手市にもぜひこのような図書館を整備したいと考えた。

照明や椅子、テーブル、カフェなど大人の落ち着いた雰囲気があり、ずっとその場で本を読んでいたという空間の演出が素晴らしかった。

以上、寝屋川市駅前中央図書館の取組についての報告とします。